

今週のビルマのニュース
2009年3月27日【0912号】

今週の主なニュース：「民主化実現には200～300年必要」とタンシュエ将軍、ほか

・「国軍の日」の27日、ビルマ軍政は首都ネピドーで軍事パレードを行った。軍政トップ・タンシュエ将軍は演説で、「成熟した民主主義は1日で実現できず、200年から300年はかかる」と述べた（27日付日経）。アウンサンスーチー氏が書記長を務める国民民主連盟（NLD）も同日、党本部で式典を開き、軍政に対し、政治囚の釈放と民主化勢力との対話の再開を改めて呼びかけた（27日付イラワディ）。

・「国軍の日」前日の26日、最大都市ヤンゴンで爆弾が爆発し、1人が死亡した（26日付AFP）。19日にはシャン州ラショーでも爆弾が爆発したが人がはなかった（27日付シャン・ヘラルド・ニュース）。

・インsein刑務所の裁判所で、新たに13人に禁固刑判決が宣告された。サイクロン被災者救援活動を行ったり、アウンサンスーチー氏の解放を求めたことが理由とされた（24日付イラワディ）。

・国民民主連盟（NLD）の中央執行委員会は19日付けで軍政に書簡を出し、軍政が2010年に計画している総選挙にどう対応するか党内部で協議するため、自宅軟禁中のアウンサンスーチー氏（NLD書記長）やティンウー氏（同副議長）と会うための許可を求めた。軍政からの返事はまだない（24日付ミジマ）。

その他：米務省高官がビルマを訪問、ほか

・中国共産党中央政治局の李長春常務委員がビルマを訪れ、26日には軍政のティンsein首相と会談した。委員は、中国がアラカン州沖から雲南省まで石油とガスを運ぶパイプライン（通称シュエ・パイプライン）の敷設や、水力発電所の建設など4つの項目についてビルマ軍政と協力するという合意に調印した。全長2,000キロメートルのシュエ・パイプライン敷設費用は12億ドルに上ると推定されており、中国が全額を負担するものと見られる（27日付日経およびロイター）。

・米国務省のブレイク東南アジア部長がビルマを訪れ、25日に首都ネピドーで軍政の外相と会談したほか、国民民主連盟（NLD）や少数民族団体とも会談した。国務省は、氏の訪問は米国のビルマに対する政策や方針の変更を反映するものではない、とした（25日付国務省、26日付ワシントン・ポスト）。訪問を受け軍政情報相のチョーサン准将は「米国と話し合う用意がある」と述べた（27日付ロイター）。

・国連人権理事会は27日、ビルマについての決議を採択した。決議はビルマで組織的な人権侵害が起きていることを批判し、2,100人以上いるとされる政治囚を釈放するよう軍政に呼びかけた。また、ビルマの人権状況に関する特別報告者の任期も1年延長した（27日付ロイター）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

新たな発表はなし

イベントなど

・政治囚の釈放を求める署名活動 ビルマ政治囚支援協会・国民民主連盟（解放地域）日本支部ら（JR新宿駅西口三井住友銀行前、28日～29日13時～）

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクションービルマ軍事政権に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を要請するアピール行動（在日ビルマ大使館前、27日15時～）

・ビルマ市民フォーラム例会「政治囚の早期釈放を！（仮題）」ビルマ政治囚支援協会（AAPP）ポーチャー氏（池袋・ECOとしま8階、4月11日18時～）

・ビルマのお正月「ダジャン水かけ祭」ビルマ民主化同盟主催（井の頭恩賜公園、4月12日10時半～）

・ミニアルバム「ミャンマー軍事政権に抗議するポエトリー・リーディング QUIET」（いとうせいこう×沢知恵×ダブマスターX）4月22日発売

・ロヒンギャ民族集団訴訟（難民不認定処分の取消、退去強制令発付の取消／無効確認を求める）原告本人尋問（東京地裁709号法廷、4月22日13時半～）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

<p>お問い合わせ ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀 yuki@burmainfo.org 080-2006-0165</p>
